

品詞分類 総復習

1 分類は三つの観点で

単語を①自立語か付属語か、②活用するか、③文中でどんな働きをするか、の順に調べる。文節は一つの自立語だけ、または自立語に付属語が付いてできる。活用とは、後続く言葉などによって語の形が変わること。

2 10品詞を整理しよう

自立語・活用あり	動詞、形容詞、形容動詞（用言）。
自立語・活用なし	名詞（体言）、副詞、連体詞、接続詞、感動詞。
付属語・活用あり	助動詞。
付属語・活用なし	助詞。

3 用言・名詞を見分ける

動詞は基本形がウ段の音で終わる。「運ぶ・いる」など。形容詞は基本形が「い」で終わる。「寒い」など。形容動詞は基本形が「だ」で終わる。「穏やかだ」など。名詞は物事などを表し、「が・は」などを伴って主語になる。「これ」のような代名詞も名詞の一種。

4 修飾する語も、活用を確かめる

副詞は主に用言を修飾する、活用しない語。「ゆっくり進む」。連体詞は体言を修飾する、活用しない語。「その景色」。接続詞は前後をつなぎ、感動詞は感動・呼びかけ・応答・挨拶などを表す。

5 働きと品詞を混同しない

「冷たい水」の「冷たい」は名詞を修飾するが、品詞は形容詞。「冷たく・冷たけれ」と活用するからだ。「静かに話す」の「静かに」も、用言を修飾するだけで副詞とはいえない。「静かだ」の活用形なので形容動詞である。

6 入試での確認手順

下線部の範囲 → 単語の切れ目 → 基本形 → 活用の有無 → 文中の働き、の順で確認する。「読ん／だ」は動詞と助動詞の二語。「静か／だ」と機械的に分けず、「静かだ」は形容動詞一語と考える。